

議会運営委員会・議会活動活性化委員会 合同視察報告書

令和7年11月10日（月）～11月11日（火）

山ノ内町・佐久市・小諸市

議会活動活性化委員会

議会運営委員会委員長 中澤清明

1 山ノ内町議会

「予算決算審査委員会の運用について。広報委員会の常任委員会化について」

平成29年まではその都度特別委員会を設置して審査していたが毎回設置するなら常設の委員会にすべきとの考え方から常任委員会化した

委員会は議長を除く全員で構成し、委員長は副議長があたる 総務産業常任委員会の委員が第1部会、社会文教常任委員会委員が第2部会に別れ所管予算を審査している

予算決算の常任委員会は設置されていたが審議の実態は総務と社会委員会に分かれて分かれて審査しており当町と変わらない状況であった ただ形式的には予算委員会への付託の形をとっており、既存の両常任委員会への分割付託は避けていて、総務省指導をうまくかわしていた

議会広報は任意の編集会議で作成していたが広報の重要性に鑑み平成24年から常任委員会に位置付けた

2 佐久市議会

「議員報酬の引き上げについて。議会BCPの策定について」

広く議員のなり手を求める観点から議員報酬をあげる必要があるとの問題意識から取組み、令和6年4月より40万⑤千円に改定された 併せて議員定数についても検討し、令和7年4月から2名減の24名とした 令和4年4月の選挙は定数を数名オーバーして選挙になった 増えたのは女性と移住者の立候補であった 従来からの市民の立候補は増えなかったとのこと 議員報酬増だけでは不足解消にならないと感じた

3 小諸市議会

「議員報酬の引き上げについて」

議会基本条例に基づき、次期選挙の1年前までに議員定数及び報酬について調査検討することとしており、その検討結果を踏まえ、議員定数1名減の18名、議員報酬2万円増の35万③千円を決めた 議会基本条例に基づき、定期的に議員活動、定数、報酬の検証を行っている点が評価できた

全体を通じて

今回2市1町を視察させていただいたが、議員報酬については何れも低報酬を何とかしたい なりて不足解消に努めたいと言う認識が見られ、どこも同じように苦労して取り組まれていた 予算決算の審議は常任委員会化している様子を拝見したが実態は常任委員会単位に分かれて審査しており、実態は当町と変わらないと感じた